受付番号 00－00－00

評価番号 OAO 33　00－00－00

耐 震 診 断 報 告 書

○○○○○○○○○○○○

作成年月日：平成○○年○○月○○日

申　込　者：○○○○○　○○　○○

耐震診断者：○○○○○○○○○○○

目　　　　　次（参考）

§１．一般概要

　１．建築物概要　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　P 1－1

２．診断方法とフロー　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　P 1－0

　３．改修履歴 P 1－0

　４．被災履歴 P 1－0

５．現況図 　　　　　　　　　　 P 1－0

§２．調査概要

　Ａ）文献調査 　　　 P 2－1

　Ｂ）現地調査 　　　 P 2－0

１．調査方針　　　　 P 2－0

　２．調査項目　　　　　 P 2－0

　３．調査実施日　　 P 2－0

　４．調査結果概要　　　　　　　　　　　　　　　　　 　 P 2－0

§３．現況診断概要

　１．診断方針 　　　 P 3－1

　２．判定指標（Ｉｗ値） 　　　　　 P 3－0

　３．診断用構造モデル化 　　　　　　　　　　　　　　　　　 P 3－0

　４．診断結果概要　　　　　　　　　　　　　　　　　 　 P 3－0

§４．項目別現況診断結果

　１．項目別診断結果 P 4－1

§５．添付資料

　１．設計図　　　　　　　　　　　 P 5－1

　２．現地調査報告書 P 5－0

　３．コンクリート強度試験報告書、中性化試験報告書　　　　　　　　　P 5－0

　注）第１～３章は考え方や判断等の数値をもとに、文章で診断内容を説明してください。

［報告書作成上の注意事項］

０．報告の作成は片面印刷を原則としてください（ページ追加が必要な場合の対応）。

　　報告書提出後にページを追加する場合、枝番表記（P1-2-1、P1-2-2等）としてください。

１．表紙の受付番号は初回提出時に記載し、評価番号は最終ダイジェスト版提出時に記載してください。

２．参考目次は報告書作成上の具体例ですが、§１～§５までの構成順は守ってください。

なお、その他に章立てが必要な場合には§６以降に追加してください。

３．各章の項目構成は、評価する物件に合わせて作成してかまいませんが、参考目次を原則としてまとめてください。判定に当たり必要な項目構成になっています。

４．§１の各項目は基本的に必須事項と考え、報告書第１章（参考資料）にそってまとめてください。特に「診断対象建築物の概要表」「構造概要表」「診断方法とフロー図」「診断概要表」「現況図面」については参考資料の形式でまとめてください。

　　また、現況構造図には耐震要素記号、接合部記号、劣化記号等を明示し、報告書内で共通の表示扱いとしてください。この現況図面は判定書に添付します。

５．§２は調査に関する概要を整理してまとめ、その他の詳細な調査結果等は調査報告書として§５に添付してください。

調査概要は、調査方法、項目、実施日等の調査の概要に関する事項と調査結果に関する事項に分かれ、それぞれについて判りやすくまとめてください。

主な調査事項は下記の項目になりますが、大きく「耐震診断の算定に必要な項目」「その他耐震性や安全性に関する項目」「劣化老朽化に関する項目」に分けられます。

詳細は基準書を参考にしてください。

① 耐力要素となる上部構造躯体（耐力要素となる壁を含む）の仕様や状況

② 基礎と土台の接合部（アンカーボルト）の仕様や状況

③ 構造部材間の接合部の仕様や状況

④ 構造部材のほか建物全般の劣化状況等

　　調査結果概要は、設計図面と現地調査結果との整合性、基礎、土台、耐力要素（壁、柱、筋違等）軸組仕様、耐力要素（床組、小屋組）水平構面仕様、接合部仕様、劣化老朽化、コア抜き調査、地盤調査、総合所見等の項目構成で代表写真数枚と共に整理してください。

　　これらの結果は判定書作成時の主な参照先になります。

６．§３は診断に関する概要を整理してまとめ、項目別の詳細な設定事項や計算結果は§４にまとめてください。この章では診断の方針とフローに従い、設定された判定指標や診断のモデル化について整理説明のうえ、診断結果について項目別及び総合的な結果概要を整理してください。

診断概要は「上部構造の結果」「その他の部位の結果」「総合所見」に分けられます。

上部構造の結果は、設定した診断フローに従い、荷重設定概要、耐震要素概要、柱頭柱脚接合部概要、構造特性係数、形状特性係数、水平構面の判定、終局変形角の確認、上部構造評点の結果等の項目別に整理してください。

その他の部位の結果は、横架材接合部の外れ、部材の劣化損傷、地盤、基礎、アンカーボルト、屋根葺き材の落下等の項目別に整理してください。

総合所見は、建物の特徴を踏まえた建物全体の診断結果概要を整理してください。

　　これらの結果は判定書作成時の主な参照先になります。

７．§４では§３に整理した診断概要の根拠となる設定や計算結果、電算データ等を項目別に整理してください。

８．§５には添付すべき資料を中心に各調査報告書や設計時の図面（現況と異なる箇所のある場合）等を添付してください。